

新発田市 令和元年度 第 11 回定例記者会見

- 1 日 時 令和 2 年 2 月 4 日 (火) 午前 11 時 ~
- 2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室
- 3 内 容
新発田市 PR ムービー第 2 弾完成披露試写会 & 交流会
中央公民館が優良公民館表彰の受賞決定
災害時における地図製品等の供給等に関する協定締結式
赤谷どんつき祭り
月岡温泉どんと祭り
「春 RUN 漫」しばたジョギング大会 in 加治川桜堤
認知症予防におすすめ 図書館利用術
体験型謎解きイベント ワトソン失踪事件
空き家活用に関する活動イベント
しばたまちゼミ
地域おこし協力隊主催イベント「雪とあそぼう」
地域おこし協力隊活動発表会
新発田市自治会連合会講演会
まちづくりフェスタ
めざせ 100 彩「健康づくりキャンペーン」
公民館まつり
新発田市明るい選挙推進「市民書初め大会」作品展

あいさつ

今年は雪が少なく、除雪費がかからず、市の財政面を考えれば、その思いが顔に出てしまうなどと、市民の皆さんへの挨拶でお話ししていましたが、もうそんなことを言っていない状況です。

ある意味では、雪も経済面では一つのツールにもなりますし、農業のことを考えると、夏場の水対策を心配せざるを得ない、そんな異常気象であると思っています。

まさに、環境活動家のグレタ・トゥンベリさんの発言に対して、我々はもうちょっと真剣に考えるべきだと、改めて思っています。

ダボス会議の際に、グretaさんがマスコミに取り上げられたとき、私も「世界でトランプ大統領を睨みつけられるのは彼女くらいだ」と軽口をたたいていましたが、そうではなくて、大人として、彼女の言っていること、生き方に対して、もう少し真剣に耳を傾けるべきだなと改めて思っています。

地球の異変は新発田の異変でもあるということです。地球の中の一つが新発田である。Gretaさんは、そのことを我々に教えているんだと思います。

そういう意味では、新型コロナウイルスの件も同じことが言えます。「対岸の火事だ。SARS が流行したときも収まったし、そのうち終息するだろう」と思っていました。

しかし、映画を見ているかのように、どんどんウイルスの流行が拡大し、もはや日本の危機、日本人の命に関わるまでになってきました。

いつか終息はするのでしょうかけれども、その後の経済が大変なことになる。そのことも大きな問題になるのではないかと心配しています。

このような状況を受けて、先日開催した課長会議では、「新発田人は地球人であり、新潟人だ、日本人だなどと言っているレベルではない。地球規模の思考回路をもって、令和の新しい時代に見合ったまちづくりをやっていく必要がある」と話をさせてもらったところです。本当に、大変な時代になったと実感をしています。

それでは、会見項目を説明いたします。

最初に、「少雪により影響をうける中小企業者等の支援策」について

今冬の少雪の影響を受け、経営面で支障を来す恐れのある中小企業者等に対し、新発田市として2つの支援策を行うことにしました。

1つ目は、1月16日から新潟県が行っている「少雪対策特別融資」に合わせ、当市としても市内産業への影響をさらに軽減するため、県の特別融資を利用する中小企業者を対象に、信用保証料を最大で100%補給する支援策を行っています。

これについては、4月30日までを支援期間とします。また、予算規模は、県からの融資を受ける想定額を1億円程度と見込み、本市が補給する保証料に最大200万円を充てることにしました。

中小企業者の借入額に応じて25%～100%まで、4段階の補給率を設定しています。

2つ目は、通常は4月に支払う除雪待機料の30%相当額を2月下旬に繰り上げて支払う支援策です。

待機料は、少雪などの影響で除雪機械の稼働時間が基準に満たない場合に、その差額として支払われ、オペレータの人件費などに充てられます。

対象となる事業者には、ぜひ、この支援策を有効に活用いただき、経営面への影響を少しでも和らげていただければと思っています。

次に、「ベトナムでの市長トップセールス」について

昨年11月のニューヨークへの訪問に続き、2月20日(木)から24日(月)に私がベトナムに赴き、^{おもむ}トップセールスを行います。

今回の渡航にあたっては、本市に本社を置きながら、ベトナム国内にも現地法人を立ち上げ、国際的な企業として成長を遂げている、株式会社^{トーワ ジャパン}TOWA JAPANの渡邊社長に、様々な面でご尽力をいただきました。

期間中は、渡邊社長が会長を務められている新潟ベトナム協会と連携し、「ジャパン・ベトナム フェスティバル」に出展し、殿様献上米の試食販売のほか、物産品や観光についてのPRを行います。

また、現地の飲食店や旅行会社を訪問し、新発田産米の利用や本市への誘客に向けた商談を行うとともに、新潟県人会と新潟ベトナム協会の交流会にもお伺いし、関連企業などの方々に本市の魅力についてご紹介をしてきます。

トップセールスは、平成 27 年度から開始し、これまでに中国、台湾、韓国、香港、シンガポール、そしてニューヨークと、世界各地で行ってきました。

今回の訪問地は、近年、急激な経済成長を遂げ、東南アジアの新興国のなかでも、まだまだ伸びしろがあるベトナムになります。

同国の食文化を思い浮かべてみると、主食はコメであり、日本でも人気のあるコメの粉を原料とした麺「フォー」なども有名です。しかし、現地の方々の一般的な主食は、日本人と同じ「白いご飯」と聞いています。

また、他の国と同様に「日本食ブーム」の影響もあり、和食を提供する外食産業も成長しており、親日家が多いとも聞いています。

このように、日本とベトナムの食文化の共通点や、馴染みやすさなどを考慮すると、絶好のターゲットになるのではないかと考えています。

私は、何事も「オール新発田」で臨むことが重要であると考えていますが、今回のトップセールスは、まさに新発田の人が繋いでくれたご縁がもとになっており、この考え方にフィットするものです。

今回は、新天地でのチャレンジとなりますが、新発田の米や観光資源などの PR を通じて、日本にある「新発田市」というまちを、多くの方に知ってもらえるよう、一生懸命にセールスしてきたいと思っています。

次に、「まちづくりドラフト会議^{フォー ユース}for Youth」最終プレゼンテーション」について

市内の高校や短期大学、大学に通う学生たちが、若者ならではの視点で、地域課題の解決に向けた方策を考え、提案する「まちづくりドラフト会議^{フォー ユース}for Youth」。この取組の提案発表会を 2 月 7 日（金）に開催します。

これまでもご案内してきたとおり、学生たちから有効な提案があった場合は市の事業に活かしていきます。今年は、昨年の参加より 2 チーム増え、8 チーム・総勢 60 人の学生が参加を予定しています。

市内の学校の皆さんに、まちづくりドラフト会議を行う目的が浸透してきていることを実感していますし、意欲ある若者たちによる提案をより多く聞くことができることに喜びを感じています。

当日は、市内企業の関係者の方々と一緒に、私も参加する予定にしています。思い返せば、初めて学生たちの提案を聞いたのは、平成 29 年に行った移動市長室の際でした。今回で、学生の皆さんのまちづくりへの思いを聞くのは、3 回目となります。

より一層、ブラッシュアップされた提案発表があることを期待したいですし、当日、ご参加いただく皆さんには、新発田の若者たちの頼もしさを感じていただく機会にしてもらいたいと思っています。

次に、「あかたにヒュッグ × ^{イチ} ^{リン} Ichi - Rin コラボ商品限定販売」について

元地域おこし協力隊員の方が焼いたパンと、イチゴ農家の方が手塩にかけて育てた越後姫を使用した商品の期間限定販売の話題をご紹介します。

今回、紹介する商品を手掛けたのは、協力隊員退任後に赤谷地区でカフェ「あかたにヒュッグ」を営む^{かわべな}^{あこ}川邊直子さんと、米倉地区で越後姫の栽培農家を営み、五十公野地区で直売所「^{イチ} ^{リン} Ichi - Rin」を運営する^{わかすぎ}^{ちよこ}若杉智代子さんです。

お二人の自慢の逸品を材料として、初めてタッグを組んで開発したものが、本日、ご用意したフルーツサンドです。

後ほど、記者の皆さんにもご試食いただきますが、芳醇で甘い越後姫の大粒のイチゴと、6 時間かけて作るこだわりの食パンをコラボレーションさせ、見た目にもかわいらしい、女性ならではの視点がギュッと詰め込まれた商品になっています。

この商品は、2 月限定で五十公野地区にある「^{イチ} ^{リン} Ichi - Rin」で販売します。価格は 4 個入りで 580 円だそうです。

それぞれに食べても美味しいものを合体させたわけですから、美味しさも 2 倍になっているはずですよ。

味を確かめられたあとには、是非、記事にさせていただき、お二人の活躍と合せて、新発田の特産物等についてのPRもお願いしたいと思っています。

このほかの情報としては、首都圏しばた・サポーターズクラブの会員が手掛けた「PRムービー第2弾」の試写会の話題や、当市の中央公民館における防災キャンプなどの取組が評価され、優良公民館表彰の受賞が決定した話題があります。

また、毎年恒例の「赤谷どんつきまつり」や「月岡温泉どんどもまつり」、そして、「春RUN漫^{ラン}しばたジョギング大会」などの情報があります。

さらには、イクネスしばたを会場に行うイベントのほか、地域やまちづくりをテーマにしたイベントなど、様々な情報があります。

一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田を盛り上げていただきたいと思います。